令和 7 年 7 月 18 日

課 名 地域政策局公共交通政策課

担当者 担当課長（交通活性化担当）矢島

内 線 2585

第 4 回芸備線再構築協議会の開催結果について

1 概 要

芸備線 備後庄原駅～備中神代駅間の交通手段再構築を議論する「芸備線再構築協議会」について、令和 7 年 7 月 9 日、第 4 回協議会が開催されたため、その結果について報告する。

〔芸備線再構築協議会の概要〕

- 特定区間：備後庄原駅（庄原市）～備中神代駅（岡山県新見市）
- 構 成 員：中国運輸局（議長）、岡山県、広島県、新見市、庄原市、広島市、安芸高田市、三次市、J R 西日本、学識経験者 ほか
- 位置づけ：特定区間の交通手段再構築を協議する場
※広域的な見地から特定区間以外の区間も含めて広島駅～備中神代駅間の区間について議論を行う。

2 現状・背景（経緯）

令和 5 年 10 月 3 日 J R 西日本が、地域交通法に基づき、備後庄原駅～備中神代駅間における再構築協議会の設置を要請

- 令和 6 年 3 月 26 日 第 1 回芸備線再構築協議会 開催
- 5 月 16 日 芸備線再構築協議会第 1 回幹事会 開催
- 7 月 10 日 芸備線再構築協議会第 2 回幹事会 開催
- 10 月 16 日 第 2 回芸備線再構築協議会 開催
- 12 月 25 日 芸備線再構築協議会第 3 回幹事会 開催
- 令和 7 年 1 月 29 日 芸備線再構築協議会第 4 回幹事会 開催
- 3 月 26 日 第 3 回芸備線再構築協議会 開催
- 5 月 19 日 芸備線再構築協議会第 5 回幹事会 開催
- 7 月 9 日 第 4 回芸備線再構築協議会 開催

3 議 事

- (1) 芸備線再構築協議会規約の変更
- (2) 第 5 回幹事会実施報告
- (3) 令和 6 年度協議会決算・令和 7 年度協議会予算の変更
- (4) その他

4 議事の内容

(1) 芸備線再構築協議会規約の変更

人事異動に伴う規約の変更について承認

(2) 第 5 回幹事会実施報告

事務局（中国運輸局）から、第 5 回幹事会の実施内容を報告

- ・ 芸備線の増便やダイヤ変更、二次交通の連携・強化、観光コンテンツの造成等の施策に取り組むことを内容とする実証事業 A（事業費 1 億円）を実施することについて一致
※実証事業 A：芸備線の可能性を最大限追求する実証事業
- ・ 新たなデータ収集やその他の調査・分析など、芸備線再構築に関するより専門的な分析等に関する調査事業（事業費 1,750 万円）を実施することについて一致
- ・ 中国運輸局が提示した全体スケジュール案について、今後、再構築方針作成に向けて協議の進め方を議論していくことについて一致

【構成員の主な意見】

構成員	主な意見
広島県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実証事業Aは、住民の理解と納得を得ながら進めることが重要であり、実効性のある形で実施できるよう、各構成員が協力することが必要である。本県としても、沿線各市や地域の皆様などと連携し、しっかりと取り組んでいきたい。 ○ 実証事業Aの土台となるダイヤ増便は、1年間実施する必要があると考えており、本県としては、実証事業Aの実施を条件付きで承認した。事務局である中国運輸局においては、引き続き、関係者間の調整をお願いしたい。 ○ 事務局がたたき台として示したスケジュール案について、実証事業Aと、最適な交通モードの在り方を検討する実証事業Bを同時に実施した場合、取組の結果が、鉄道と、他の交通モードのいずれによるものか、効果測定が困難になるため、実証事業Aを終えてから、実証事業Bに着手すべきと考える。 ○ 全国的な鉄道ネットワークの在り方は、再構築協議会の議論の前提であるため、他モードとの比較検証を行う実証事業Bに入るまでに整理していただきたい。
庄原市	<ul style="list-style-type: none"> ○ 列車の増便等を土台とした1年間の実証期間の確保をお願いしたい。 ○ 沿線自治体や地域の関係団体等が一体となった取組を行うことで、鉄道による広域移動が促され、人々の往来の活発化が図られるため、広島市・三次市・安芸高田市にも、増便を始めとする実証事業の取組にご協力をお願いしたい。 ○ 実証事業A及びBの実施・検証を終え、両検証結果を比較検討することが、再構築方針案の協議を進めるうえで、必要なプロセスと考えており、中国運輸局においては、こうした意見を考慮して、合意形成を図っていただきたい。

※ 岡山県・新見市からは、意見なし

(3) 令和6年度協議会決算・令和7年度協議会予算の変更

- ・ 令和6年度決算（予算額2,000万円 決算額1,977万円）の承認
- ・ 令和7年度変更予算案（実証事業1億円、調査事業1,750万円）の承認

※ 構成員からの意見なし

(4) その他

【構成員の主な意見】

構成員	主な意見
広島県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国的な鉄道ネットワークの在り方は、芸備線だけの問題として指摘しているのではない。一つ一つの路線を考える前に、JR全体をどうするのか、この点を国が検討・判断することなく、対象とされた線区の在り方の検討を沿線自治体のみ委ねることは適切でなく、国が基本的な考え方をしっかりと整理すべきである。 ○ 29道府県知事による特別要望において、石破内閣総理大臣から提案のあった「国と地方の議論の場」について、現在、国で検討いただいているところである。 ○ 骨太の方針2025において、「鉄道ネットワークの在り方等の議論の深化に関し、さらなる取組を進める」と記載されたことも踏まえ、本県としても、しっかりと議論していきたいと考えており、また、国にも議論を進めていただきたいので、早期に設置していただくようお願いしたい。

構成員	主な意見
庄原市	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中山間地域は厳しい状況にあり、民間の市場原理のみに委ねると、暮らしの様々な面で利便性が低下し、地方から都市部への人の流出を助長していくことになる。 ○ 公共サービスや公共インフラについては、国の関与のもとで一定水準が確保されなければ、国が提唱する「国土の均衡ある発展」や「地方創生」に逆行すると考えており、地方ローカル鉄道の維持を含む、人の移動の確保について、これまで以上に国の関与をお願いしたい。
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実証事業の実施にあたっては、地域バランスに配慮し、実効性のある事業となるよう構成員間の調整を丁寧に行っていただきたい。 ○ 再構築協議会は、地域住民や議会との合意形成を丁寧に進めていく必要があるため、協議会の運営がスケジュールありきとならないよう改めてお願いしたい。
新見市	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実証事業の内容は、広島側・岡山側双方のバランスに配慮していただき、沿線住民だけでなく、鉄道ネットワーク圏域の多くの皆様に芸備線を利用いただくよう、国やJRにおいても、広報やプロモーションに積極的に御協力いただきたい。 ○ 実証事業は、実施ありきではなく、しっかりと検証する必要があるため、事前に検証方法を検討すべきであると考えます。
JR 西日本	<ul style="list-style-type: none"> ○ 再構築方針策定の議論に向けて、どのような仮説を立て、どのように検証していくのか、構成員間でしっかりと共通認識をもって進めていきたい。 ○ 協議会で合意した実証事業Aについて、JRとしても最大限協力していくが、運転手や車両のリソースの関係で、今年度は4カ月の実施が限界と判断している。 ○ 12月以降の増便について、構成員間で議論した上で、必要であれば、バスを列車に見立てた増便を実施する余地はあると考えているので、どのように進めていくか、具体的に構成員間で議論していきたい。 ○ 自治体の取組に、JRとしても連携していきたいので、自治体で検討されている二次交通やイベントについて、教えていただきたい。 <p>(⇒庄原市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 列車の増便期間に合わせて、7月19日から、備後西城駅や東城駅を発着点とし、比婆山や帝釈峡などの観光拠点等と結ぶシャトルバスを運行。 ・ 日常利用として、9月から、西城地域と東城の小奴可地区において、駅を発着点とした、デマンド型バス、乗合タクシーの運行を調整中。 ・ このほか、列車と地域資源を活用したツアーや、駅周辺施設でのイベント開催などを行い、住民の行動変容や地域経済効果の最大化を図っていく。 <p>(⇒新見市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 矢神駅、野馳駅、道の駅、鯉が窪湿原を周遊するジャンボタクシーを運行。 ・ 増便列車を活用したツアーを検討中。
神田教授	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実証事業Aは、①地域経済効果の多寡、②効果発現までの時間、③その効果がどれだけ持続するかという持続可能性、という3つの軸を踏まえ、芸備線の可能性を最大限追求していくものである。 ○ 実証事業の結果は、この3つの軸をもとに、要因分析を行う必要がある。 ○ 実証事業として実施する様々な取組を続けていくために、どのようなマネジメント体制が望ましいのかを意識した上で、実施していくことが必要である。 ○ 広報に当たっては、ターゲットを明確にし、行動変容につなげるための戦略を緻密に計画しなければならない。 ○ 実証事業を踏まえて、現行の制度や仕組みの改善が必要な場合には、ボトルネックを具体的に明らかにしていくべきと考える。

5 今後の対応

- 実証事業Aの実施について、今回、協議会としての予算が成立したことを踏まえ、県としても、庄原市を始めとした芸備線沿線各市や、地域の皆様などと連携し、実証事業にしっかりと取り組んでいく。
- 実証事業Aの前提となるダイヤの増便は、7月19日から11月24日までの4か月間のみとされているが、取組の周知から定着に一定の時間を要することや、春夏秋冬の季節に応じた移動需要の変化を踏まえるため、1年間実施されるよう、引き続き、中国運輸局に対して、関係者間の調整を求めている。
- 全国的な鉄道ネットワークの在り方について、「国と地方の議論の場」が早期に設置されるよう、引き続き国や関係県とともに調整を行っていく。

6 その他

(1) 今後のスケジュール（予定）

令和7年 夏頃	芸備線再構築協議会第6回幹事会	
秋頃	芸備線再構築協議会第7回幹事会	
	第5回芸備線再構築協議会	
令和8年 年明け	芸備線再構築協議会第8回幹事会	
年度末	第6回芸備線再構築協議会	(以降順次開催)

(2) 予算（単県）

12,745千円（令和7年度6月補正予算12,588千円を含む）